

平成23年度 事業報告書の概要

1. 法人の概要

○法人名

八商学園

○設置する学校・学部・学科等

(1) 中九州短期大学

A 経営福祉学科

① 情報・ビジネスコース

② 介護福祉士コース

B 幼児保育学科

① 保育総合コース

② こども心理コース

(2) 秀岳館高等学校

A 普通科

① 特進コース

② 進学コース

③ 保健福祉コース

④ 総合コース

B 商業科

① 情報ビジネスコース

② トータルデザインコース

C 建設工業科

① テクニカルコース

② クラフトコース

○学部・学科等の入学定員・学生数の状況

(1) 中九州短期大学

学科	入学定員	収容定員	在籍数 (平成23年5月1日現在)
経営福祉	50 人	100 人	124 人
幼児保育	80	160	145
計	130	260	269

(2) 秀岳館高等学校

学科	入学定員	収容定員	在籍数 (平成23年5月1日現在)
普通	240 人	720 人	865 人
商業	60	180	146
建設工業	100	300	147
計	400	1,200	1,158

総在籍数	1,427 人
------	---------

○役員・教職員の概要 (平成23年5月1日現在)

(1) 役員 (理事・監事)

役員数							
理事	選任区分	定数	現員	監事	選任区分	定数	現員
	号	寄附行為第6条 第1項第1号・2号	1		1	号	寄附行為第7条第1項
	3号	2~3	3				
	4号	2~4	3				
	計	5~8	7		計	2	2

(2) 評議員

評議員数		
選任区分	定数	現員
寄附行為第21条第1項第1号	5~7	5
2号	2~4	2
3号・4号	1	1
5号	7~10	9
計	15~22	17

(3) 教員

中九州短期大学

区分	専任					兼任	計
	教授	准教授	講師	助教	計		
経営福祉学科	3	1	2	1	7	10	17
幼児保育学科	4	3	2	3	12	13	25
計	7	4	4	4	19	23	42

秀岳館高等学校

専任						兼任	計
校長	副校長	教頭	教諭	講師	計		
1	1	1	18	42	63	4	67

(4) 職員

	常勤職員	非常勤職員	合計
中九州短期大学	9	1	10
秀岳館高等学校	7	19	26
合計	16	20	36

2. 事業の概要

○中九州短期大学

教育環境の充実

・教育用パソコンの導入及び各教室のテレビ・プロジェクターの入替を行い教育環境の充実を確保しました。

建物の補修等

・開学38年のため、建物の老朽化もあり、屋上の防水工事及び外壁の塗装工事等も行いました。

女子寮の整備

・安全で快適に過ごせるように、女子寮玄関ゲートの設置工事及び外壁の塗装工事を行いました。

○秀岳館高等学校

・徳彩寮の寮監室増築、栄祐館のミーティング棟増築及び2号館1階を女子寮に改装工事

23年度も施設の一部を寮に改装して入寮希望者を受け入れたが、24年度も入寮希望者が増えたため徳彩寮の寮監室と栄祐館のミーティング室を寮生の部屋に改装して受入を整えたので、新たに徳彩寮の寮監室を、栄祐館にミーティング棟を増築した。

また、女子生徒の入寮希望者も増えたため、2号館の1階を女子寮に改装して受け入れに対応した。

・中九州短期大学のグラウンドを人工芝に改装工事

24年度より女子サッカー部の創部に合わせて、練習場所として中九州短期大学のグラウンドを雨天時でも練習でき、中九州短期大学の学生たちも活用できるように人工芝に改装した。

(1) 当該年度の事業の概要

平成23年度事業報告書

【中九州短期大学】

月	日	摘 要	月	日	摘 要			
4	1	始業 現預金監査(公認会計士)	14	14	熊本中央高校進学ガイダンス			
	4	1年生オリエンテーション(午前) 2年生オリエンテーション(午後) X線撮影		15	熊本地区進学ガイダンス			
	5	入学式(10:30AM開式・八代ハーモニーホール) 幼保78名・経福46名・計124名入学		16	清陵高校進学ガイダンス 天草地区進学相談会 慶誠高校進学個別相談会			
	6	前期講義開始		20	野田女子高校進学ガイダンス 教育実習(幼2年6/24迄)			
	7	X線撮影、尿検査		25	熊本県私立大学協会ホウリング大会 保護者会研修旅行(6/26まで)			
	8	尿検査		7	2	七夕祭り・オープンキャンパス		
	11	保護者会会計監査・役員会(6:00PM本学にて)			5	熊本国府高校ガイダンス		
	12	広報活動開始			11	八代地区進学ガイダンス		
	16	保護者会、総会・交流会11:00～			13	菊池地区進学ガイダンス		
	18	内科検診 八代地区進学ガイダンス			14	松橋地区進学ガイダンス		
	20	内科検診 熊本地区進学ガイダンス			15	介護実習ⅡB事前実習説明会		
	21	内科検診 保護者会、役員会17:00			20	多良木高校進学ガイダンス		
	25	AED講習会13:00～			21	介護実習ⅠA事前実習説明会		
	28	全学学外研修 消防設備点検			23	オープンキャンパス		
			29		前期講義終了			
			30		前期定期試験(8/2迄)			
	5	6	八代地区進学相談会		8	3	夏期休暇(9/14迄)	
		11	創立記念日			6	くま川祭り参加	
		11	熊本地区進学説明会			8	成績発表	
		13	献血	9		追・再試験(8/10迄)		
		18	熊本県私立大学協議会(熊本) 平成23年度会計監査 奨学生辞令交付	11		会計監査		
		26	新入生歓迎スポーツ大会	20		オープンキャンパス		
		27	簿記特別講座開始	29		保育実習Ⅱ・Ⅲ(保育所・施設幼2、9/10迄) 介護実習(経介護1年、9/9迄) 消防設備点検		
		30	学園理事会・評議員会(八代ロイヤルホテルにて)	31		AO入試(一回目)		
		6	1	幼稚園実習説明会		9	8	保護者会教育進路面談週間(9/14迄)
			2	熊本県私立大学協会事務局長会議			10	保護者会役員会
			2	くま川会会計監査			15	後期講義開始
			3	くま川会総会			17	オープンキャンパス
7			八代地区進学ガイダンス	22			くま川会役員会	
7			神村学園進学ガイダンス	30			前期卒業証書授与式	
8	山鹿地区進学ガイダンス		10	1	AO入試(2回目)			
				5	水質検査			
			8	公開講座開催				

月	日	摘 要	月	日	摘 要	
10	9	学園祭スペシャルライブinET-KING	1	19	保護者会役員会	
	13	会計監査		20	後期講義終了(幼1.経1年、経情報2年)	
	14	全国エイサー大会出場(沖縄市:10/17迄)		23	後期定期試験(幼1.経1年経情報2年:1/25迄)	
	15	公開講座開催		2	1	成績発表(幼1年・経1年、経情報2年)
	19	熊本地区進学説明会			2	追・再試験(経1年、経情報2年、幼1年～2/3日迄)
11	29	ざぼん祭(30日迄) オープンキャンパス	2	3	日本語基礎演習発表	
	11	1		AO入試(3回目) 日商簿記対策特別講座	3	一次試験・社会人入試選考
		5		一次推薦・指定校・社会人・奨学生選考	6	保育実習 I (幼1年2/20日迄)
		7		介護実習(2年.11/30迄)	6	介護実習ⅡA実習(介1年.29日迄)
		10		「おさかな教室」(幼保2年.不知火漁協)	8	後期講義終了(幼2年、経介護2年)
		11/5		入試合格発表	9	後期定期試験(経、介護2年、幼2年。2/10迄)
		11		鶴翔高校進学ガイダンス	2/3	一次試験合格発表
		13		「介護の日」イベント参加	10	天草地区進学説明会
		14		教育実習(12/5迄)		くま川会交流会
		15		熊本県私立大学協会研修会	15	介護福祉士養成施設卒業時試験(介2年)
		20		鎌入式(サッカー人工芝グラウンド) 日商簿記検定試験	16	KTC中央高等学院進学ガイダンス
		21		地鎮祭(サッカー芝グラウンド)	17	成績発表(幼2年.経介護2年)
25	八代農業高校職業ガイダンス	20	追・再試験(幼2年.経2年～21日迄)			
28	税務講話(全1年生対象、八代税務署)	24	介護福祉士養成施設卒業時試験(介2年)			
12	5	職場体験受入(9日迄) 都城地区進学ガイダンス	2	26	日商簿記検定試験	
	8	「おさかな教室」(幼保2年.不知火漁協)		27	保育実習 I (幼1年3/10日迄)	
	9	内部監査(中間) 保育所実習説明会			福祉用具専門相談員講習(3/2迄)	
	10	二次推薦・社会人入試選考 くま川会研修旅行(12/11迄)		28	熊本地区進学ガイダンス	
	12	経、介護1年:実習報告会		28	卒業判定会議	
	13	天草地区進学説明会		29	追・再試験成績発表(幼2年.経2年)	
	15	12/10二次推薦・社会人入試選考合格発表		3	5	二次試験入試選考
	19	幼1年 就職講話			8	大牟田地区進学ガイダンス
	20	八代地区進学ガイダンス			9	二次試験合格発表
	24	冬期休暇				浄化槽清掃
1	4	仕事始め		尚綱高校進学ガイダンス		
	10	講義再開	14	八代東高校進学ガイダンス		
	16	消防避難訓練	15	学位記授与式リハーサル		
	17	会計監査	16	学位記授与式		
		経、介護実習説明会	19	阿蘇地区進学ガイダンス		
			21	出水地区進学ガイダンス		
			22	入学前オリエンテーション		
				寮生集会		
			25	普通 I 救命講習(27名:鏡消防署にて)		
			28	理事会・評議員会(八代ロイヤルホテルにて)		
			31	終業		

(1) 当該年度の事業の概要

平成23年度 事業報告書

秀岳館高等学校

月	日	事業内容	月	日	事業内容	
4	1	新任辞令交付、学園現金預金監査(公認会計士)	10	26	植木北中説明会	
	7	新任式・始業式		27	富合中説明会	
	8	入学式(389名、八代厚生会館)	28	八代地区学校説明会、八代八中、西山中説明会		
	12	生徒・職員健康検診(～6/12)	11	1	不知火中説明会	
	28	城南八代益城地区高校大会		2	宇土鶴城中説明会	
5	13	創立89周年記念行事(市総合体育館)	4	下城南中説明会		
	15	ボランティアPフォーク	7	小川中、三角中説明会		
	23	決算監査(公認会計士)～24日	9	1学年登校指導、坂本中説明会		
	27	決算監査(学園監事)	10	学校説明会(火の国ハイツ)		
	30	学園理事会・評議員会	11	第十四回秀岳館高校「ふれ愛まつり」		
6	3	県高校総合体育大会、文化祭(～6/3)	13	あしながPウォーク参加		
	9	八代五中3年生進路講話	15	松橋中、住吉中説明会		
	10	保護者会総会	16	公認会計士監査		
	17	3年生生性教育講話	21	部活動ムーブメントトレーニング(時習館)		
	24	天草チャリティーコンサート(松島707)、2年生生性教育講話	23	八代妙見祭参加(鉄砲・毛槍、飾馬)		
	28	中学校との連絡会(熊本市内)	28	東陽中、宇城地区説明会		
	7	1	1年生生性教育講話、歯科助手臨床実習(3年生6/27～7/8、2年生6/27～7/1)	12	1	特進海外ホームステイ(～16)
4		大野中説明会	2		県監査事務局監査	
5		高校と企業の意見交換会	5		2学年職場体験学習(～9)	
6		初任者研修(7/6～7/8)、C3-2美容講習	9		学園監事中間監査	
8		田浦中、維和中説明会	12		避難訓練	
11		八代三中説明会	14	公認会計士中間監査		
12		八代七中、二見中説明会	16	水俣・芦北チャリティーコンサート(しろやまスカイドーム)		
15		全校映画鑑賞	22	2学期終業式、学園理事会		
22		一学期終業式	1	4	御用始め	
8		1		私学一斉研修(各教科部会)	10	3学期始業式
		3		一日体験入学	11	3学年登校指導
	6	八代くま川まつり「総踊り」参加		13	推薦・専願生願書受付(～24日)	
	8	3年生二者面談(普通科)		14	センター試験(～15日)	
	9	八代地区人権同和教育研究会、就職相談会		16	ムーブメントトレーニング	
	10	3年生二者面談(商業科、建設工業科)	17	公認会計士監査		
29	二学期始業式	20	2学年進路ガイダンス			
9	2	島原生徒募集	25	推薦・専願生入試		
	5	就職応募受付開始	27	推薦・専願生合格発表		
	7	1学年阿蘇研修(～9日)	28	推薦・専願生入学手続き(～29)		
	9	公認会計士監査	2	6	2学年修学旅行(～10日)	
	13	2学年登校指導		7	高校生のための就職フェア、併願入学願書受付(～16日)	
	14	飛鳥Ⅱ出港セレモニー		10	1学年登校指導	
24	体育大会	13		ムーブメントトレーニング		
26	新障害者就職面接試験	14		就職未定生徒に対する「就職支援セミナー」		
10	3	阿蘇郡市私立高校合同説明会		16	3学年登校指導	
	4	八代二中説明会	17	併願生入試		
	6	千丁中、天明中説明会	22	併願生合格発表		
	7	天草地区合同学校説明会	23	併願生第一回入学手続き(～24日)		
	13	公認会計士監査	3	1	23年度卒業証書授与式	
	14	一届けき希望のひかり一人吉・球磨地区チャリティーコンサート		13	2学年登校指導	
	14	八代六中、竜北中説明会		15	併願生第二回目入学手続き(～16日)	
	17	日奈久中説明会		23	退任式・修了式	
	19	熊本入学説明会		24	24年度入学生の入学説明会	
	21	秀岳祭(発表・展示・マーケット)(～23日)	28	学園理事会・評議員会		
	24	豊野中説明会	31	23年度事業終了		
25	八代四中、八代五中説明会、高校生のための就職フェア2011					

学科運営方針（平成23年度）

目的 経営福祉学科では、経営や情報および介護・福祉に関する専門的知識・技能を授け、
職業人として最も基本となる人間性を育み、地域に根ざした企業人および介護福祉士として社会的貢献を通じて地域の活性化に資する人材の育成を使命とする。

平成23年度の取り組み

◎情報・ビジネスコース

以下の日程で特別講義を実施した。

平成23年 5月24日～6月11日	春季 日商簿記検定特別講座
平成23年 8月16日～8月27日	ITパスポート試験特別講座
平成23年 9月6日～9月10日	夏季 日商簿記検定特別講座
平成23年 10月25日～11月19日	秋季 日商簿記検定特別講座
平成23年 2月10日～3月11日	ITパスポート試験特別講座
平成23年 2月10日～2月18日	冬季 日商簿記検定特別講座

特記事項

◎介護福祉士コース

1) 介護福祉士養成に関すること

I.1 年生実習に関する項目

期日	項目	対象
平成23年8月29日～9月9日	介護実習ⅠA実習	学生（通所介護・訪問介護）
平成23年2月6日～2月28日	介護実習ⅡA実習	学生（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム）

2年生実習に関する項目

期日	項目	対象
平成23年8月15日～9月2日	介護実習ⅡB実習	学生（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム）
平成22年11月7日～11月30日	介護実習ⅠB実習	学生（障害者施設、グループホームほか）

※ 各実習前には、実習先事業所・施設様に向けて実習説明会を開催し、実習前施設見学・ボランティアを行い、実習中には帰校日を設け実習を終了した。また実習後には課題研究発表会を実施した。

2) 訪問介護員 2 級に関すること

実施期間：平成 23 年 4 月 11 日～平成 22 年 9 月 30 日

実習期間：平成 23 年 8 月 29 日～9 月 1 日

3) 福祉用具専門相談員に関すること

実施期間：平成 24 年 2 月 27 日～3 月 2 日

4) 普通救命講習に関すること

実施日：平成 24 年 3 月 25 日

5) 資格試験に関すること（資格取得者のみ）

・介護福祉士全国統一模擬試験 実施日：平成 23 年 12 月 5 日

・介護福祉士卒業時共通試験 実施日：平成 24 年 2 月 15 日

6) 学外活動

1 年生：平成 22 年 11 月 13 日 熊本県主催「介護の日」に参加

特記事項

今年度は卒業生 29 名中、介護福祉士受験資格取得者 26 名全員が介護福祉士資格取得に至った。主な就職先は、高齢者施設（すずらんの里、皇寿園、かがやき園、向春苑、安寿の里、行楽園、八祥苑、白藤苑、タンポポ等）、障害者施設（のぞみ）、病院（宇賀岳病院、敬仁病院）などに、介護福祉士資格取得者は全員就職が決定した。

また、資格が取れない学生 3 名いたが 2 名が就職し 1 名が進学した。3 名はヘルパー 2 級を取得している。

学科運営方針（平成23年度）

目的 幼児保育学科においては、保育に携わる教養や専門的な知識を習得させ保育士・幼稚園教諭として最も基本となる人間性を育み、社会的貢献を通じて地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。

平成23年度の取り組み

建学の精神である「師弟の和熟」に基づき、学科の運営・充実を図るために、次のような取り組みをした。

1. 幼児保育学科実習指導室の改善および充実

平成21年度から設置した実習指導室においては、年々環境整備の改善や充実を図っている。保育実習（保育所・施設）や教育実習（幼稚園）指導のために実習担当者がそれぞれの学生のニーズに合った実習前・実習後の指導や対応は勿論のこと、学科教員間で連携を取り協力体制を取りながら学生の指導に臨んだ。実習指導室は、実習先から入手した資料や先輩たちが残してくれた実習記録などを学生が閲覧できるよう、また幼稚園免許取得のために義務付けされた「履修カルテ」を保管・閲覧することのできる拠点としても機能するよう工夫をしたが、実習指導室の利用時間帯や方法に少々課題を残した。

本学科の1年生が平成23年9月に地元の公立幼稚園に出向き観察実習を実施したことは、貴重な体験となった。学生たちにとって本実習への導入として有意義な活動となった。観察実習は学生たちと地域の子どもたちとの交流の場として地元の各園との連携を強化し、さらに学生のキャリア形成のための貴重な体験として今後の発展へつなげることのできる機会である。

2. 多様な学生に対する支援

1) 聴覚障がい学生の受け入れに伴う学習支援

平成23年度入学生にも聴覚障がいをもった学生がおり、本人にわかりやすい資料を提供するなど情報保障のために、講義資料の充実、パワーポイントを用いた授業など、授業方法の一層の工夫を教員側は行っている。さらに学習支援センターを中心に、情報保障のための学習支援として、「ノートテイク」「パソコンノートテイク」をボランティア学生の協力を得て昨年度から引き続き実施した。

2) 心の病気や人間関係で病む学生への支援

入学前・入学後に人間関係で悩む学生や、大学生活において支援が必要な学生には、ゼミ担当教員および学習支援センターのスタッフが学習や生活の各方面において出来る限りの支援を行っている。専門的に対応できるシステムを構築するために、平成22年度からは臨床心理士資格を持っている教員を迎え、学習支援センターのスタッフとして学生への相談援助が展開されている。落ち着いた環境で学生が相談できる相談室の確保が望ましく、相談室の環境を改善・工夫することの課題は残っている。

3) 幼稚園登録試験対策講座の開講

熊本県私立幼稚園に就職のためには 8 月にある登録試験を受験することが前提となるが、本学科においては平成 23 年度前期に毎週、登録試験のための対策講座を課外の特別指導として開講した。私立幼稚園就職への道を拓いていくとともに、学生の知識・教養の向上を図り、保育所等の就職試験においても学生が能力を発揮できることを目標にした。

3. カリキュラムの改善

教員免許法の改正により平成 23 年度より開講された教職に関する科目「教職実践演習(幼稚園)」は、免許取得の総仕上げと位置づけられる重要科目であり、科目のカリキュラム作成と運営は、教育学・教職の専門教員を中心に学科全体で検討を重ねながら進めた。学生が短期大学 2 年間の教職課程の履修履歴を把握するという目的のために「履修カルテ」の作成・活用が必要とされているが、初年度の実施を踏まえ現在改定作業を進めている。また本学が理想とする保育者像に向けて保育士・教員養成を行っていくために、本学の独自性を含めたカリキュラム内容の工夫や改善を進めている。

新カリキュラムとして開講された「キャリアスタディ I」では、保育者に必要な素養や社会で生き抜くためのスキルを身につけることを目標に、文章指導から学外奉仕活動に至る幅広い課題に取り組むことで、自己表現力や福祉マインドを磨き、学生個々の人間性を高めていくことに努めた。保育者の専門性や質の向上、さらには柔軟なコミュニケーション能力を身につけることが求められている保育界の現状を踏まえ、学科の果たす役割は非常に大きい。

特記事項

保育士資格や幼稚園教諭二種免許を取得し、専門職希望の卒業生は全員就職を決定した。主な就職先は、保育園(いずみ保育園、キューピー保育園、しらぬい保育園、二見中央保育園、八代つくし保育園、わかみや保育園、わらび保育園、鏡しらぬい保育園、出水南保育園、日吉保育園、仁愛幼稚園、供合保育園、リズム幼稚園、わらべ保育園、城南こぼと保育園、豊川保育園、かもめ保育園、水俣さくら保育園、松島保育園、箱ノ水保育園、木上ひかり保育園、あすなる保育園)、幼稚園(さくら幼稚園、あじさい幼稚園、松橋幼稚園、まこと幼稚園、水俣ふたば幼稚園、人吉中央幼稚園)、社会福祉施設(八代学園、慈愛園乳児ホーム、くまもと芦北療育医療センター、シオン園)等である。

本年度は、熊本県内外にある保育園からの求人が多数あり例年の 2~3 倍を超えた。

1. 教育方針

「秀でた四方の山々が天空を仰ぐ名山の如く、大地にしっかり根を張り、文武両道を兼ね備え、機知機略に富む感性豊かな人材の育成」という教育理念を基に、全力を結集して最高の闘志を抱き、全てにチャレンジして行く生徒の育成を主眼とする。

2. 教育努力目標

以下の目標を掲げ、教職員が共同理解のもとに努めました。

○礼節を重んじ遵法の心を養い、調和のとれた心身ともに健全な青少年の育成に努める。

○能動的な研修意欲に富む教師となる。

①秀岳館高校に学びよかったと誇りに思う生徒。

②秀岳館高校の教師としてよろこびとビジョンをもつ教師。

③秀岳館高校を守り育て発展させようという地域の願い。

(理事会・評議員会・保護者会・同窓会)

④世界の視点に立ち、国家、社会の教育に対する要請。

(教育の動向・国際的展望)

3. 教育実践の具現化

次のことを目標に掲げ、生徒の資質向上と個々の技能発掘を目指しました。

『知る一感性』

教育実践の具現化を達成するために、「生き方を学びあう教育の創造」として、次の11項目を掲げて教育を行いました。

①礼節と対話(基本的行動の習慣性)

◎挨拶……一言対話

◎友愛……相手の思い

(優しさは対話力)

②イベントプロジェクトの重視

[広目の心で多聞し持続・増長]……怒るな叱れ ◎個の理解… 個性重視の原則

◎動機探り… 説得力

③人権学習の重視

◎人権・同和教育… 生涯学習

◎個性の尊重… 人権学習

④生徒指導・生活指導… 対応力の研鑽

⑤教育環境の整備・充実(クリーンライフの活用)

◎美的感覚の醸成… 服装、マナー

◎自然と共生へのドリーム

⑥リフレッシュな教育

◎資格、検定等の取得

◎楽しい授業の開発

◎I・T指導の進化

◎日常英会話の推進—国際交流

- ⑦経営推進（学級・学校）の原点は担任・・・ 動・静・動の論理教師の力量を高める
3学科8コース制の充実・工夫・・・ ◎各学級、各学年、各部等の連携強化
◎家庭との信頼関係・・・ 判断力と対話力
◎切磋琢磨
- ⑧インタークラフト部の進取的な実践・・・ ◎ランドスケープ・デザイナー
◎地域に貢献できる学校
- ⑨広報活動の充実・・・地域に親しまれる活動（幼・小・中・地域）
生徒主体の活動
インターネット
- ⑩学寮運営の教育的ビジョン・・・ 細心のケア
- ⑪現在・将来・未来のビジョン（フューチャープラン課の機能）
◎感性の教育・・・ 感動する人間、感化する人間
◎基礎・基本を身につける教育・・・ 型より型へ
◎螺旋型教育・・・ 点、線、面、螺旋
◎社会変革（国際交流）教育的洞察力

4. 経営方針

校訓の「中道を歩み社会有為の材となることを期せよ」をもとに「礼節を重んじ遵法の心を養い、調和のとれた心身ともに健全な青少年の育成に努める。」ことを教育努力目標に、

- 1 実践三綱領
 - ①礼節・・・敬天愛人の道を深める（徳）
 - ②真理・・・温故知新の学理を深める（知）
 - ③剛健・・・剛毅木訥の人となる（体）
- 2 目指す学校像
 - ①マインド（心、意識、理性）に溢れる・・・授業・イベント
 - ②優しさを基本とする（六感の自覚）～個性開花～
 - ③生涯学習社会ネットワーク確立を図る・・・地域等との連携
 - ④創造性に富む対話力 = 実のある研修
- 3 目指す生徒像
 - ①自他の調和を図り、共生・共有する生徒（個性発信の能動性）
 - ②豊かな洞察力と判断力・実践力（知的感性）
 - ③国際的視点に立つ
- 4 心ある教師像
 - ①視野を広げ、柔軟性と豊かなビジョンを持つ教師
 - ②新しいものをクリエイトしていく、チャレンジ精神の教師
 - ③生活指導のできる教師（生徒指導力につなげる）
 - ④事例即・我教師

を育成することであり、教育実践の具現化として、「和願愛語ーひとこと対話」を目標に個性の発掘を行いました。

本校には国公立の大学に進みたい者、スポーツに励みたい者、一芸に秀でた者、中学校の出席日数が少ない者、身体の障害のある者などいろんな生徒が学園で共に学んでいます。そうしたなかで和願愛語ーひとこと対話を行い、生徒一人一人を大切にしています。

平成23年度は357名の卒業生を社会に送り出しました。卒業生の進路として、60%（215名）の生徒が進学しました。その内、32%（69名）が四年制大学に、34%（73名）が短大に、34%（73名）が専門学校等に進学しました。

卒業生の内、29%（104名）の生徒が就職し、64%（91名）が県内に、36%（51名）が県外に就職しました。11%（38名）は家事手伝などについています。

「進学先」

○四年生大学

大分大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知東邦大学、朝日大学、大谷大学、岡山商科大学、岐阜経済大学、九州看護福祉大学、九州共立大学、九州国際大学、九州産業大学、近畿大学、熊本学園大学、久留米大学、崇城大学、第一工業大学、帝京大学、帝塚山大学、東海大学、東京国際大学、東京農業大学、東洋大学、徳島文理大学、徳山大学、名古屋学院大学、西日本工業大学、日本経済大学、日本文理大学、阪南大学、福岡女学院大学、福山大学、平成音楽大学、了徳寺大学、九州ルーテル学院大学。

○短期大学

大分県立芸術文化短期大学、中九州短期大学、大阪産業大学短期大学部、九州造形短期大学、近畿大学九州短期大学、久留米信愛女学院短期大学、尚綱短期大学、帝京大学短期大学部、福岡こども短期大学、福岡女子短期大学。

○専門学校

T Bカイロプラクティックカレッジ、大阪モード学園、大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校、大原簿記専門学校、加治木看護専門学校、九州中央リハビリテーション学院、九州美容専門学校、熊本Y M C A学院、熊本駅前看護リハビリテーション学院、熊本工業専門学校、熊本総合医療リハビリテーション学院、大原公務員医療専門学校、熊本駅前看護リハビリテーション学院、熊本ベルエibel美容専門学校、熊本労災看護専門学校、公務員ゼミナール、壺恵塾、専門学校モア・ヘアメイクカレッジ、専門学校九州ビジュアルアーツ、田中陽子グルーミングスクール、東京アカデミー、常磐学院、西鉄国際ビジネスカレッジ、ニチイ学館八代校、日本ウエルネススポーツ専門学校、日本文理大学医療専門学校、服部栄養専門学校、平岡栄養士専門学校、平岡調理・製菓専門学校、福岡医療専門学校、福岡スクールオブミュージック専門学校、福岡ベルエポック美容専門学校、瀬上医療福祉専門学校、メディカル・カレッジ青照館専門学校、八代看護学校、八代実業専門学校、リゾートトラストホテルカレッジ、名古屋市医師会看護専門学校。

「就職先」

○県内

ヤマハ熊本プロダクツ(株)、熊本ドック(株)、松木産業(株)、松木運輸(株)、(資)M G S、神田工業(株)、熊本木材(株)、(株)藤興機、(資)稲田製網、湯野住宅機器、アイ・ティ通信サービス(有)、パリッシュ(有)、セブンイレブン八代古閑浜店、介護老人保健施設皇寿園、介護老人福祉施設みやび園、特別養護老人ホームやすらぎ荘、(株)永井製作所、(株)シルバーバック、(株)ワールドインテック、岩下兄弟(株)、(有)マキノ工業、(有)コダナス企画、(有)富山工業、(有)大成物流、(有)三浦自動車、高濱組、ひまわり建装、介護老人福祉施設新清苑、あしきた農業協同組合、津奈木町役場、上天草市役所、陸上自衛隊

○県外

スターゼンミートプロセッサー(株)、(株)海星ムサシ、(株)テンガイ、(株)日本ソフト工業、久留米運送(株)、佐川急便(株)、(株)稲富組、(有)ヘルシープラン柳元、J A鹿児島いずみ、陸上自衛隊、三菱自動車工業(株)、(株)きんでん、高揚工業(株)、本州工業(株)、(株)ブランドア、鋼管ビルト(株)、(株)大和、(株)天一食品商事、(株)ワークステーション、トヨタ自動車(株)、トヨタ車体(株)、トヨタ紡績(株)、日鉄鋼管(株)、(株)上組東海支店、(株)エス・エス産業、飯島製本(株)、愛知陸運(株)、医療法人新生活会新生会第一病院、日本精工(株)、三菱ふそうトラックバス(株)、富士重工(株)、(株)サンオキ、山崎パン(株)、埼玉医科大学病院、警視庁。

3. 財務の概要

各年度損益計算書

【高校】

(単位 千円)

科目	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
生徒数(人)	1,324	1,208	1,111	1,137	1,158
納付金収入	530,308	495,040	458,693	472,923	484,384
手数料収入	5,682	5,184	5,728	5,443	6,341
寄付金収入	496	1,000	2,848	586	0
補助金収入	310,209	293,800	290,451	365,982	299,313
資産運用収入	5,735	6,520	6,179	6,753	6,353
事業収入	160,859	156,370	166,404	173,463	198,465
雑収入	28,800	54,118	9,800	30,403	35,732
合計	1,042,089	1,012,032	940,103	1,055,553	1,030,588

人件費支出	419,687	440,891	376,578	401,360	405,596
教職員人件費	331,472	325,028	313,420	315,603	315,372
退職金	24,326	51,425	3,773	24,152	29,588
退職金掛金	29,170	28,655	27,150	27,621	26,501
所定福利費	34,719	35,783	32,235	33,984	34,135
教育経費支出	340,898	327,970	324,199	280,320	309,991
管理経費支出	183,952	165,206	168,314	173,184	188,077
支払利息支出	1,164	913	1,646	2,836	2,837
雑支出	15,016	5,599	18,581	10,900	12,139
剰余金	81,372	71,453	50,785	186,953	111,948
合計	1,042,089	1,012,032	940,103	1,055,553	1,030,588

【短大】

科目	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
生徒数(人)	263	248	262	273	260
納付金収入	250,385	230,764	236,631	249,031	246,073
手数料収入	4,918	4,723	5,120	4,456	5,206
寄付金収入	3,403	8,074	3,288	2,885	8,231
補助金収入	24,908	48,872	42,587	44,811	49,858
資産運用収入	2,485	3,127	2,721	3,353	2,626
事業収入	7,783	6,552	9,556	7,253	5,269
雑収入	1,815	23,935	11,480	7,092	14,930
合計	295,697	326,047	311,383	318,881	332,193

人件費支出	171,257	190,973	174,098	273,538	178,529
教職員人件費	142,355	139,769	136,217	130,649	130,198
退職給与引当金				109,011	4,811
退職金	1,386	23,790	11,292	6,901	14,885
退職金掛金	13,313	13,177	12,697	12,978	14,761
所定福利費	14,203	14,237	13,892	13,999	13,874
教育経費支出	29,064	27,560	36,158	30,699	31,797
管理経費支出	28,249	26,918	35,575	28,443	28,219
支払利息支出	1,347	697	122	0	0
雑支出	8,626	2,486	6,703	3,014	1,522
剰余金	57,154	77,413	58,727	△ 16,813	92,126
合計	295,697	326,047	311,383	318,881	332,193

資金収支計算書

平成23年4月1日

平成24年3月31日

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 額
学生生徒納付金収入	695,070,850	730,457,250	△ 35,386,400
手数料収入	10,006,000	11,546,990	△ 1,540,990
寄付金収入	8,375,830	8,230,830	145,000
補助金収入	329,592,480	349,171,332	△ 19,578,852
国庫補助金収入	49,718,000	49,718,000	0
地方公共団体補助金収入	279,874,480	299,168,332	△ 19,293,852
市町村補助金収入		285,000	△ 285,000
資産運用収入	9,454,912	8,978,725	476,187
事業収入	203,313,200	203,734,231	△ 421,031
雑収入	45,282,800	45,367,217	△ 84,417
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	91,790,000	115,050,000	△ 23,260,000
その他の収入	182,158,906	158,858,979	23,299,927
資金収入調整勘定	△ 230,119,306	△ 230,478,127	358,821
前年度繰越支払資金	2,288,721,448	2,288,721,448	0
収入の部合計	3,633,647,120	3,689,638,875	△ 55,991,755

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 額
人件費支出	573,782,545	579,314,349	△ 5,531,804
教育研究経費支出	342,143,435	341,877,247	266,188
管理経費支出	228,841,625	205,704,385	23,137,240
借入金等利息支出	2,843,506	2,836,769	6,737
借入金等返済支出	98,440,000	98,440,000	0
施設関係支出	107,000,000	98,397,765	8,602,235
設備関係支出	29,951,520	26,476,640	3,474,880
資産運用支出	0	270,001,125	△ 270,001,125
その他の支出	122,425,869	133,742,567	△ 11,316,698
予備費	732,640	0	732,640
資金支出調整勘定	△ 82,486,650	△ 85,690,590	3,203,940
次年度繰越支払資金	2,239,872,630	2,018,538,618	221,334,012
支出の部合計	3,663,547,120	3,689,638,875	△ 26,091,755

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該年度における支払資金の収入及び支出の顛末を明らかにしたものです。

(1) 資金収支計算書 : 収入の部

当年度収入合計が予算比5,599万円増の140,092万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では、368,964万円。前年度比では、30,663万円減となっています。これは、施設設備支払いによる前年度繰越支払資金の減少によります。

(2) 資金収支計算書 : 支出の部

当年度支出合計が予算比2,609万円増の167,110万円。施設関係支出(施設設備整備等)の12,487万円増と資産運用支出27,000万円に伴い、次年度繰越支払資金は、翌年度の収入となる前受金収入を含み201,854万円となり、前年度比では27,018万円の減となっています。

消費収支計算書

平成23年4月1日

平成24年3月31日

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 額
学生生徒納付金	695,070,850	730,457,250	△ 35,386,400
手数料	10,006,000	11,546,990	△ 1,540,990
寄付金	8,475,830	8,230,830	245,000
補助金	329,592,480	349,171,332	△ 19,578,852
国庫補助金	49,718,000	49,718,000	0
地方公共団体補助金	279,874,480	299,168,332	△ 19,293,852
市町村補助金	0	285,000	△ 285,000
資産運用	9,454,912	8,978,725	476,187
事業収入	203,313,200	203,734,231	△ 421,031
雑収入	47,460,200	50,662,567	△ 84,417
帰属収入合計	1,303,373,472	1,362,781,925	△ 59,408,453
基本金組入額合計	△ 181,184,420	△ 172,754,405	△ 8,430,015
消費収入の部合計	1,122,189,052	1,190,027,520	△ 67,838,468

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 額
人件費	587,010,225	584,125,389	2,884,836
教育研究経費	384,857,522	383,534,506	1,323,016
管理経費	245,247,539	235,567,675	9,679,864
借入金等利息	2,843,506	2,836,769	6,737
資産処分差額	161,620	4,464,220	△ 4,302,600
徴収不能額	4,392,500	1,095,054	3,297,446
徴収不能引当金繰入額	5,650,500	8,102,071	△ 2,451,571
予備費	5,717,695		5,717,695
消費支出の部合計	1,235,881,107	1,219,725,684	16,155,423
当年度消費支出超過額	△ 113,692,055	△ 29,698,164	
前年度繰越消費収入超過額	453,786,489	453,786,489	
基本金取崩額	0	2,942,800	
翌年度繰越消費収入超過額	340,094,434	427,031,125	

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにするためのものです。学校法人は、営利企業とは異なり、教育・研究が目的ですので、剰余金が多いほど良いというのではなく、長期にわたって収支の均衡をとることが求められています。

(1)消費収支計算書：消費収入の部

帰属収入合計(学校法人の負債とならない収入)が予算比5,941万円増の136,278万円(前年度比1,165万円減)となり、基本金組入額合計が、予算比843万円減の17,275万円(前年度比20,069万円減)となり、消費収入の部合計は予算比6,784万円増の119,003万円(前年度比18,903万円増)となりました。

(2)消費収支計算書：消費支出の部

消費支出の部合計が予算比1,616万円増の121,973万円(前年度比3,244万円減)。

(3)消費収支計算書：当年度消費収支差額は2,970万円の消費支出超過(前年度は25,217万円の消費支出超過)で翌年度繰越消費収入超過額は42,703万円となりました。

貸借対照表

平成24年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(2,742,473,243)	(2,422,090,900)	(320,382,343)
有形固定資産	(2,458,854,814)	(2,405,815,906)	(53,038,908)
土地	582,221,473	582,221,473	0
建物	1,285,426,195	1,279,133,947	6,292,248
その他の有形固定資産	591,207,146	544,460,486	46,746,660
その他の固定資産	(283,618,429)	(16,274,994)	(267,343,435)
流動資産	(2,179,167,868)	(2,429,731,327)	(△ 250,563,459)
現金預金	2,018,538,618	2,288,721,448	△ 270,182,830
その他の流動資産	160,629,250	141,009,879	19,619,371
資産の部合計	4,921,641,111	4,851,822,227	69,818,884

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	(266,897,409)	(320,526,369)	(△ 53,628,960)
長期借入金	153,075,000	211,515,000	△ 58,440,000
退職給与引当金	113,822,409	109,011,369	4,811,040
流動負債	(245,475,416)	(265,083,813)	(△ 19,608,397)
短期借入金	58,440,000	98,440,000	△ 40,000,000
その他の流動負債	187,035,416	166,643,813	20,391,603
負債の部合計	512,372,825	585,610,182	△ 73,237,357

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	3,889,237,161	3,719,425,556	169,811,605
第4号基本金	93,000,000	93,000,000	0
基本金の部合計	3,982,237,161	3,812,425,556	169,811,605

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	427,031,125	453,786,489	△ 26,755,364
消費収支差額の部合計	427,031,125	453,786,489	△ 26,755,364

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,921,641,111	4,851,822,227	69,818,884

貸借対照表は、平成24年3月31日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示しています。

(1)資産の部

施設関係(グラウンド整備、女子寮増改築および改修整備等、)設備関係(パソコンの導入、車輛の購入等)を行ったため、前年度より6,982万円増加した。

(2)負債の部

本年度は特に特記事項もなく、前年度より7,324万円減少した。

(3)基本の部

施設投資をしたため、第一号基本金は前年度より16,981万円増加した。

(4)消費収支差額の部

第一号基本金への基本金組入(16,981万円)のため、当年度消費支出超過額(2,970万円)になりました。その結果、翌年度消費収入超過額が減少しました。

◎主要財務比率

比率		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	44%	47%	44%	49%	43%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	76%	87%	79%	93%	80%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	31%	29%	32%	25%	28%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	17%	15%	17%	15%	17%
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	7%	8%	4%	9%	10%

財 産 目 録

平成24年3月31日

I 資産総額	4,921,641,111 円
内 基本財産	2,742,473,243 円
運用財産	2,179,167,868 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	512,372,825 円
III 正味財産	4,409,268,286 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	80,158.71 m ² 582,221,473 円
建物	25,037.00 m ² 1,285,426,195 円
図書	61,794 冊 130,314,032 円
教具・校具・備品	460,893,114 円
その他	283,618,429 円
2 運用財産	
現金預金	2,018,538,618 円
その他	160,629,250 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	4,921,641,111 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	153,075,000
その他	113,822,409
2 流動負債	
短期借入金	58,440,000
その他	187,035,416
負 債 総 額	512,372,825
正味財産(資産総額－負債総額)	4,409,268,286

学校法人会計基準の基本

学校法人が学校経営を行う目的は、教育・研究を推進することで、人材を育成するとともに研究活動の成果を社会に還元することです。そのため 学校法人会計の基本的な考え方は、企業の会計原則と変わりありませんが、企業会計が損益を重視するのに対して、「計算書類」によって教育活動が円滑に行えるか否かを知ることにあります。

国や地方公共団体から補助金を交付される学校法人は「学校法人会計基準」に従って会計処理を行い「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」の各種計算書類の作成が義務づけられています。

資金収支計算書

毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

消費収支計算書

当該年度の消費収支の内容と状況を示すことにより学校法人の経営状況を表しています。法人に帰属する負債にならない収入と、資産・借入金の返済・積立金など資本的支出にあてるものを除いた支出を計上します。また、収入からは学校法人を継続的に運営していくための、教育に必要な資産を保持するための金額である基本金を除いた収入を表示しています。

貸借対照表

当該年度末における資産・負債・基本金および収支差額を示しており財務状況の健全性を表すものです。

学校法人会計の原則

学校法人会計は次の四つの原則により行われており、学校法人の経理の適正化や合理化を図るため、公認会計士又は監査法人による監査制度が導入されています。

- 1.財政及び経営の状況について、真実な内容を表示すること。
- 2.すべての取引について、複式簿記の原則によって、正確な会計帳簿を作成すること。
- 3.財政及び経営の状況を正確に判断することができるように、必要な会計事実を明りょうに表示すること。
- 4.採用する会計処理の原則及び手続き並びに計算書類の表示方法については、毎会計年度継続して適用し、みだりにこれを変更しないこと。

学校会計と企業会計との違いについて

学校法人も企業も経済活動を営んでいる点では同じですが、その事業目的に大きな違いがあります。企業は経済活動そのもの、利益追求を目的としていますが、学校法人は教育・研究活動を目的としています。ただし、経済活動が目的でなくても、教育研究活動を行う手段として経済活動も営む必要があります。学校法人の財政構造は、企業のように「モノ」を生産・販売し、利潤を獲得するといった生産経済体とは異なり、支出の増加に対して収入の増加を図ることが難しい非弾力的な構造を持つ消費経済体です。学校法人の収入の7割強が、自由に増額することが難しい学生生徒等からの入学金や授業料や国や地方公共団体からの補助金で構成されており、教育・研究発展のための支出を削減することは難しいことが特徴です。

経済面から企業の役割と学校法人の役割では、委託責任機能、管理機能ではその対象、方法に違いはあるものの同じといえますが、学校法人には利益測定機能はありませんが、学校を存続させるための収支バランスの状況測定は必要であり、消費収支計算書がその役割を果たしています。

収益の獲得を目的としない学校法人の会計には、損益の計算という目的はありません。企業会計との基本的体系の違いとしては、企業会計にはない「資金収支計算書」の存在です。また、教育という公益性の強い事業を行う法人のため、その永続性を重視したことから基本金という概念が導入されています。

学校法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わりますが、この会計年度ごとに、「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「貸借対照表」などの計算書類を作成しなければなりません。また、資産と負債の内容を明らかにする「財産目録」を作成する必要もあります。

学校法人会計と企業会計の目的や作成する計算書類等の相違点は以下のとおりです。

	学校法人会計	企業会計
事業目的	教育・研究活動	利潤獲得のための経済活動
会計処理のルール	学校法人会計基準	企業会計原則
財政構造	消費経済体	生産経済体
作成書類	資金収支計算書	キャッシュフロー計算書
	消費収支計算書	損益計算書
	貸借対照表	貸借対照表

独立監査人の監査報告書

平成24年5月31日

学校法人 八商学園
理事会 御中

大同監査法人
公認会計士 氏森 昌孝 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づく監査報告を行うため、昭和51年7月13日付け文部大臣告示第135号に基づき、学校法人八商学園の平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、消費収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

計算書類に対する理事者の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚位表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人八商学園の平成24年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

学校法人と当監査又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

平成24年5月25日

学校法人 八商学園

理事長 中川 静也 殿

学校法人 八商学園

監事 坂口 浩昭 ⑩

監事 山本 雅之 ⑩

監査報告書

私たちは、学校法人八商学園の監事として、私立学校法第37条第4項に基づいて平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）における計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、消費収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表及び基本金明細表を含む）及び理事の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私たちは上記の計算書類は学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人八商学園の平成24年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

また、理事の業務執行状況に関する不正の行為、または法令もしくは寄附行為に違反する事実のないことを確認いたしました。